

岩津ねぎを核とした 資源循環型農業システム

＝伝統種子の継承と地域連携による里地里山保全＝



日本農業遺産

令和7年1月認定

兵庫県朝来地域

中山間地の狭小な谷間地域で、稲わらや粃殻、但馬牛の堆肥を主とする地域資源を活用した循環型農業が営まれ、伝統野菜「岩津ねぎ」等が栽培されるとともに貴重な生物多様性が育まれています。

伝統種子の継承

- ・江戸時代後期に生野鉱山従事者の冬期の食料確保のため、九条系ねぎが栽培されたことが始まり
- ・時代に適応した品種改良を行うとともに、生産組合が原種及び配布用種子を生産している

資源循環型農業

但馬牛の堆肥や稲わら、粃殻などの施用など地域資源を活用した循環型農業を実践している



パッチワーク状の 景観形成

- ・病害虫のまん延防止のため、団地化を避けた栽培が行われている

生物多様性の保全

- ・ウスバシロチョウに代表される多種多様なチョウ類や特別天然記念物のオオサンショウウオやコウノトリなど生物多様性の保全へつながっている

日本農業遺産認定による効果

認知度向上・地域活性化

地元生協に加え、阪神間の大手百貨店での販売拡大や、11月23日の販売解禁イベント、6次産業化商品開発を通じて、地域ブランドと交流人口の拡大を進める。

- ・ 日本農業遺産認定を機にロゴマークを作成、活用したPRの展開
- ・ 岩津ねぎの販路拡大と供給体制の推進
- ・ 道の駅での解禁イベントで試食・限定メニュー販売の実施
- ・ 竹田城跡、生野鉱山、但馬牛など地域資源と連携した観光振興
- ・ 高校・食品メーカー・商工会等と連携した商品開発



▲特産品「岩津ねぎ」

- 岩津ねぎ販売量：184,946kg(R6)
- 観光客数：1,882千人(R6)
- 岩津ねぎ関連商品：60品目(R6)

次世代への継承

小学校の総合学習、伝統行事、原原種更新などを通じて、食・農・文化・種子を次世代へ引き継ぐ。

- ・ 小学生を対象に「伝統野菜の歴史・栽培・調理」までを学ぶ総合学習の実施
- ・ 豊作を祝う「やっさ祭り」などの地域文化を継承
- ・ 兵庫県立北部農業技術センターと連携し、3年ごとの原原種更新の継続



▲やっさ祭り

- 新規就農者数のうち岩津ねぎの担い手：14人(R6)
- 岩津ねぎ種子販売量：180(R6)
- 食育に関する勉強会：1回(R6)

生物多様性の保全

国内で初めて世界農業遺産に認定された島の但馬牛の堆肥、稲わら、粃殻、茅を活用した資源循環型農業を継承し、パッチワーク状の農地景観と生物多様性の保全を図る。

- ・ 有機堆肥の利用拡大により、持続的な土づくりと地域資源循環を強化
- ・ コウノトリ育む農法の拡大により、生きものと共生する営農を推進
- ・ ウスバシロチョウ、特別天然記念物オオサンショウウオやコウノトリの生息環境に配慮
- ・ 里地里山の景観と草原性生物の生育環境を保全
- ・ 病虫害対策として、ねぎほ場を分散させる慣習を継承し、特徴的な景観を維持

- 市土づくりセンター有機堆肥販売額：10,867千円(R6)
- コウノトリ育む農法生産面積：75.2ha(R6)
- 農地保全活動：1回(R6)



▲環境保全活動



▲オオサンショウウオ
コウノトリ
ウスバシロチョウ